北海道の体育

体研連ミニ広報

No. 4

令和 2 年 10 月 19 日（月）

臨時総会研修会・第 30 回全道研究担当者研修会

令和 2 年 10 月 3 日（土）に臨時総会研修会 兼 第 30 回全道研究担当者研修会（以下　研担研）が、ホテル ライフォート札幌で行われました。昨年度の研担研以来の集合開催となり、11 支部から役員・事務局員を合わせた 46 名の参加となりました。ご来賓として顧問の第 25 代委員長 飯沼 晃 様、第 28 代委員長 中野 正毅 様にもご出席を賜り、総勢 48 名で執り行われました。

全道研究担当者研修会全体会の様子

第 25 代委員長　　第 28 代委員長
飯沼　　晃 様　　中野 正毅 様

【臨時総会研修会】

会に先立ち、本年7月23日にご逝去された佐藤 公一 相談役を偲び、黙祷を行いました。委員長 大牧 眞一の挨拶で会が始まり、続いてご来賓の顧問 飯沼 晃 様よりご挨拶をいただきました。その後、昨年度でご勇退された前委員長の中野 正毅 様に感謝状を贈呈しました。

委員長　大牧 眞一 挨拶

感謝状贈呈

第 28 代委員長 中野 正毅 様ご挨拶

各支部の活動状況や各地域の現況についての紹介を兼ねた自己紹介では、初任者のサポートや運動会（体育参観日）等の体育行事の行い方についての交流、今後の感染予防に配慮した体育学習、体育研修の実施についてなど、各支部でコロナ禍であってもできることを模索し、実践されていることが伺えました。渡島支部では、１月に体育研究会が開催予定であることや、上川支部では「今さら聞けない体育指導集」を作成中（全 60 ページの予定）という報告もありました。昨年度連盟加入の後志支部からは、会員数が増加しているとの嬉しいお話もありました。

各支部の活動状況や各地域の現状

支　部	各支部の取組・現況
旭　川	研究部で運動会（体育参観日）、今後の体育学習の交流を予定
渡　島	体育研究会（１月）を予定
小　樽	体育参観日（午前３部制）の実施、研究授業を実施予定
ｵﾎｰﾂｸ	初任者のサポート
上　川	今さら聞けない体育指導集（60 頁）の作成（１月発行予定）
釧　路	低・中・高の３ブロックでコロナ禍でもできることの交流
札　幌	チャレンジ授業の実施・交流
後　志	支部発足２年目、会員数の更なる増加
十　勝	今回の提案を受けて、今後の研究の方向性について検討
函　館	研究授業を行い、少人数で研究討議を行う予定
留　萌	年一回の研究大会、体育ゼミナールを交互に実施（今年度は体育ゼミナールに変更予定）

≪令和２年度新役員≫※敬称略

委員長	大牧	眞一（札幌）	新
副委員長	和田	正教（札幌）	
	神谷	敦（札幌）	
	土橋	史人（渡島）	
	倉	博之（上川）	
	新谷	修（釧路）	
	四戸	基樹（札幌）	新
	福島	義教（旭川）	新
	新谷	公康（函館）	
	下坂	吉彦（帯広）	
	緒方	隆人（ｵﾎｰﾂｸ）	
	亀田	寛人（留萌）	新
監　事	佐田	利典（札幌）	
	千葉	智明（札幌）	新
事務局長	嶋本	剛（札幌）	新

続いて、事務局長 嶋本 剛より、これまで２回発行された感染予防に配慮した体育学習資料の作成をはじめとする今年度の業務経過報告や、来年度以降の全道大会開催地の確認がされました。

次に、令和２年度 全国学校体育研究 優良校・功労者が紹介され、受賞校を代表して本連盟事務局次長 札幌市立中の島中学校の秀島 起也 校長より、受賞者を代表して本連盟副委員長 渡島支部 渡島体育研究会会長の森町立森中学校 土橋 史人 校長よりご挨拶いただきました。

副委員長
土橋 史人 校長

【第 30 回全道研究担当者研修会】

第 30 回全道研究担当者研修会では、研究部長の山形 昇平より新統一研究主題の設定に向けた「今後の重点」に関する提案がありました。参加のすべての支部から感想や質問、意見や要望、さらには支部で大切にしていることなどが出されました。

渡島体育研究会副会長
岩井 祐巳 校長

・今回の学習指導要領において強調されている、「見方・考え方」について重点を置くことで、運動量の減少につながってしまうことが心配される。
・体を動かす楽しさやできるようになる喜びを味わうことができるようにするために、「する・みる・支える・知る」と関連する手立てをとりながら、運動量も上手に確保していく。
・「体育の見方・考え方を豊かに働かせる」ことと、評価との結び付きを大切にしていきたい。
・運動の苦手な子へのアプローチとして、「する」へのアプローチとあわせて、「みる・支える・知る」へのアプローチを念頭に置くことで、「主役は子ども」となる授業を目指す。そのために子ども同士や子どもと教材を結び付ける教師の手立てを講じていく。

・「豊かなスポーツライフ」「生涯スポーツ」といった広義の視点で体育学習を行っていく。「みる・支える・知る」喜びは、つながっていくもの、つくっていくものであり、自然に生まれるものではない。
・「する」が苦手でも、分かっていてアドバイスもできる「みる・支える・知る」ができている子に「それでも体育ができているんだよ。」と価値付けていきたい。「する・みる・支える・知る」と関連する手立ては、単元を通して行っていくものなのか、それとも毎時間設けるのか。
→研究部では、どれもおろそかにしないと考えており、単元のどこかで「する・みる・支える・知る」のいずれかが強く表れると考えている。
・「これはよい授業」と感じる授業は、軸がしっかりしていて子どもの「する」で変容が見られていた。それと同時に、何がそうさせていたのかを考えたとき、「みる・支える・知る」がいろいろなところに散りばめられていた。そこにスポットを当てていく。
・小学校 6 年間、中学校 3 年間の 9 年間の中で、「する・みる・支える・知る」をどのように身に付けていけばよいのかを考えていく。
・体育らしさを大事にしていきたい。また、何を学ぶのかを明確にし、課題を焦点化させることや、それをどのように学ぶのかを大切にすることで、課題の解決に向けた課程を通して子どもが資質能力を高めていけるようにする。
・「運動好きの体育嫌い」を作らないようにする。そのために教材化と問題解決を一体化して考えることや、小中 9 年間を見通した体育学習を行っていく。
・全国大会に向けた青写真はあるのか。なければすべての支部が同じ方向を向くために狭い統一研究主題にせず、副主題で詳しくすることで、それぞれの支部でのアプローチのよさを北海道らしさとしてアピールしていきたい。
・どの先生も無理なくできる教材の工夫、単元構成や見通しのもたせ方が望まれる。
・「知る」は身体によい影響があることを知ると考えれば、保健分野にも生かせる。
・授業評価シートは、参会者が視点をそろえて授業を観ることで授業後の話合いで生かせるようにしたい。すでに行っている支部もあるが、研究部から出されるものが他支部でも生かせるとよい。

（文責：広報部　部長　濵田　風太）

集合写真